

# 支援員を求めて —僕・私の施設

本号では、札幌報恩会札幌報恩学園の富田さんから新生会風連別学園の須貝施設長にバトンが渡りました。人口1,200人の初山別村を愛し、そこに暮らす障がい者の方々の生活を保障するために常日ごろ職員への愛を胸に取り組んでいる須貝施設長にその現況を伝えていただきました。なお、次回は、北斗市にある侑愛荘の祐川施設長にバトンが渡ります。

## 田舎の小さな村の現況

社会福祉法人新生会風連別学園 園長 須貝 暁 三

【はじめに】私達の施設のある初山別村は人口1,200人、世帯数550戸。昭和53年に初山別学園、平成7年に風連別学園を開設。その後グループホーム2棟を建設。現在通所を含め利用者総数100名、職員総数72名。職員の家族を含め施設の関係者総数は約200名。村の人口の約6分の1を占める。この1年間に納めた住民税・所得税は約1,500万円。職員の公営住宅代、水道料、給食材料や日用品、ガソリン代に重油代、建築物等々、これまでの40年間に数十億円の金額がこの小さな村の中で支払われている。組織力と人材を含め福祉施設が村に寄与してきた事実は計り知れない。

地方の過疎化が進行するなか、もし40年前にこの村にこの施設が誕生していなかったとしたら更なる過疎化が進み、この村の存続までもが危ぶまれたかも知れない。この村にとってこの施設は福祉だけではなく、過疎対策でもあり、村の活性化であり、経済であり地域の職場であり、将来への夢と希望と安心でもある。……のかも知れない。

【福祉職員採用の現状】今や福祉職員に限らず全ての職種に於いて職員採用が困難と聞く。この現状を打破することは福祉界に於いては恐らく数年かかってでも解決しないものと思われる。私も団塊の世代であるが、団塊の世代の介護のピークは未だ先である。更に子育て支援による待機児童解消の保育士増員の必要性を推察するとき、福祉系の新卒者だけでは絶対数は足りない。恐らく今後20年近くもこの現象は続くと推測するが、介護の人材確保は更に厳しい困難を覚悟しなければならないだろう。……ならばどうすればよいのか？

【職員採用への努力】福祉は人なりと云っても素晴らしい人を選べるだけの人が集まらない。一流会社には応募が殺到するにも係わらず、何故これほどまでに福祉職が嫌われるのか？給料が安い、待遇が悪い、仕事が辛い、残業が多い、職場環境が悪い、夢が無い、将来が不安、充実感が無い、仕事が面白くない、正規職員になれない、充実した退職金制度が無い、頼れる上司がいない、信頼できる施設長がいない。

ならばこれらのことを全て改善すれば事は足りる。その努力をしなければ明日の福祉はない。福祉施設にとって人材は宝なのだから。施設に金を残して宝を失ってはいけない。現在まで惜しまずその努力をして来たつもりではいるが今後も努力を怠らず継続したい。正規職員、臨時職員、短時職員は本人が決めることを基本にし、臨時職員も正規職員と同じ諸手当を支給し、退職金制度も同じに継続。将来への不安を解消し人材と夢を育てる。法人に金は残らないが人材は残る。……と自分に言い聞かせながら。

【職員への夢を語る】施設運営費の70%前後は職員の給与。経営が厳しいと云われているが未だ社会福祉法人が倒産した話はあまり聞かない。将来への不安も無く安定した生活が保障された恵まれた会社である。公務員並みの給料を受け、不景気でも賞与が当たり、定年まで勤めれば総額2億円前後の報酬。更には2,000万円前後の退職金が貰える。夫婦で勤めればその2倍。この村で結婚し（定着）、同じ職場で働き（安定と雇用）、子供を育て（人口増）、30歳代で家建て（夢）、子供はまたこの福祉施設に勤め（採用難解消）、親から子へ、子から孫へと引き継がれる（老後の安定）。<職員の現況は夫婦勤務11組22人、親子勤務3組6人、他の既婚者17人、単身者27人>。我々の施設は零細企業ではあるが、夢のある安定した会社に今私達は勤めている事に感謝し、次の世代に語り継ぎたい。この国において福祉と医療と教育は衰退する事は無い。……と確信をもって。

【最後に】秘策は、頁数の関係で次の機会に。……「居酒屋ともしび」で一杯飲みながら。

